

Vol.11 ルワンダ コーヒー 通信

アフリカ大陸中央に位置する小国ルワンダ。カップオブエクセレンスも開催され、今コーヒー界でも急成長して世界から注目を集めるルワンダコーヒーの魅力を余すところ無くご紹介します。

2017年
収穫見通し本格導入
ゾーニング施策2月の加工場
収穫準備2017年
行事予定2017年
収穫見通し

今年は昨年以上の収穫予想！3-6月が収穫期

2月のルワンダは小乾季に入りました。赤道直下でも標高が1,300-2,200mあるルワンダは、現在気温は20℃前後と過ごしやすいんです。今年は、昨年の裏年から大きく収穫量が増える表年になり、コーヒー農家もいよいよ始まる収穫期の準備をしています。農家はそれぞれこの時期に、完熟豆の収穫や収穫後すぐの加工処理など、ポイントの確認をしています。雨季が始まる3月から農園では完熟のチェリーが付き始め、その後6月まで、コーヒーに携わる人達の忙しい季節が続きます。今年も例年通り3-6月が収穫期となる見込みです。収穫期の便りがもうすぐそこまで迫っています！

試験導入
“ゾーニング”施策

農家と加工場の”新しい”関係作りが開始

ルワンダは約400,000の零細農家がコーヒー産業に従事しています。その零細農家の人達は、自分の農園で育てたコーヒーチェリーを、なるべく高く買ってくれる加工場まで持っていく、加工場オーナーが買い付けます。そのため、今まではなかなか農家と加工場の繋がりが流動的でしたが、今年からゾーニング施策を政府が本格導入、農家は最寄りの加工場で売買をするように規定しました。それにより農家と加工場の関係が深まり、「トレーサビリティの改善」、「徹底した品質の追求」が可能になりました。今年から、ひと味違うルワンダコーヒーへ！期待が高まります。

2月の加工場
収穫準備

ウォッシングステーションの収穫準備も順調

コーヒーチェリーは精選のためにすぐに農園からコーヒーウォッシングステーションという加工場へ運ばれます。来月からの収穫に備え加工場も受入準備に大忙し。農閑期ではあまり使われないこのウォッシングステーション、その間の雨風などによるダメージのため、毎年メンテナンスが必要なんです。全ては高品質でクリーンなカップが特徴のルワンダコーヒーを作るため。加工で使われる水の質を確認するため給水施設の検査、乾燥時に使われる広大な面積のアフリカンベッド(写真左)の修繕、フル稼働させる機械(写真右)の動作確認、そしてシーズン前の農家集会(写真下)など、品質を上げる為のあらゆる事前確認が多くの人を巻き込んで行なわれるんです。

2017年
行事予定

今年はCup of Excellenceが復活見込

ルワンダのコーヒーセクターの今年の戦略は、政府の農作物輸出管理局により収穫前に一斉に決まります。今年はまだ正式に発表されていませんが、Cup of Excellenceという国際品評会の夏の開催や春のAFCA(アフリカファインコーヒー協会)、冬のSCAJ(日本スペシャルティコーヒー協会)への出展が地元コーヒー関係者から見込まれています。今年のルワンダコーヒーもぜひご注目！

